

4月の星空まっふ

「4月中旬、午後8時頃に見える星空」

この冬も強風に悩まされ、おまけに何度もの雪景色...、じゃがハケ岳南麓にも、しっかりと春の足音が聞こえておる。さあ、春の星空に会いに行こうではないか！

はい。ホミリー、春の星たちに早く会いたい！どんな星や星座があるのかとっても楽しみ！

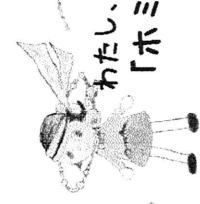
ここに注目！スピカ

& アルクトウールス!!

東の空に、オレンジ色に輝く明るい星、うしかい座の1等星「アルクトウールス」。日本では、初夏の麦刈りの頃、日暮れの頭上に輝くことから、「麦星」の名がある。そして、アルクトウールスの南に白く輝くおとめ座の1等星「スピカ」。スピカはその白い輝きから、「真珠星」と呼ばれてきた。

この2つの星、5~6万年後には仲良く並んで輝くそうだが、「めおと星」とも呼ばれており、今は遠く離れているが、アルクトウールスは、秒速125kmの速度でスピカの方へ移動しているそう。

この2つの星が、宇宙的悠久の時を経て、やがて互いに寄り添うように並んで輝く...、何とロマンのある天文ショーだろ。気の遠くなる話じゃが、ほのぼのとした春の星空の世界を感じるのう。



わたし、「ホミリー」。

N7F

2024.4

星筈(ほしじり)

=注目の星、もう一つ=

「方角」を教えてください!!

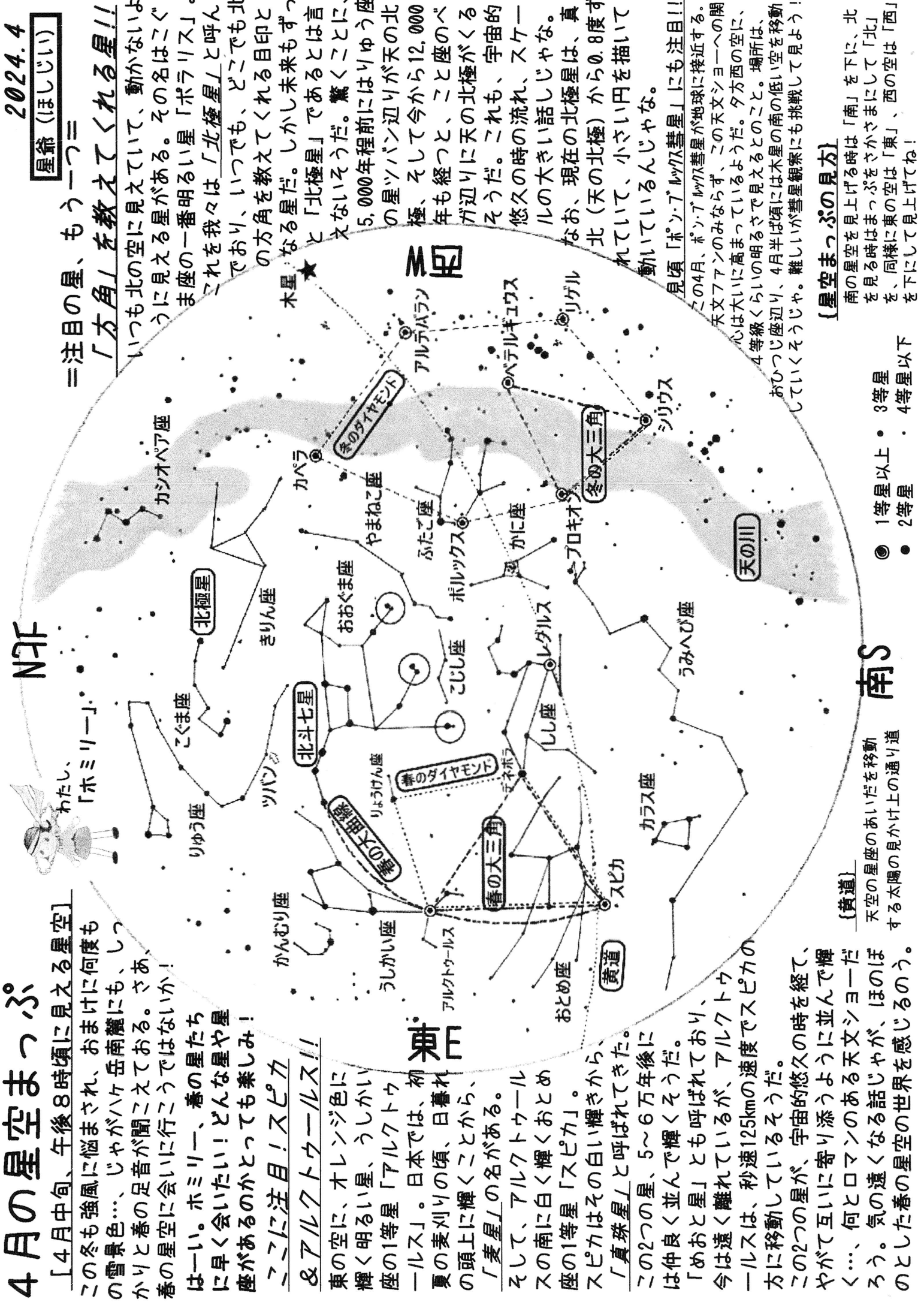
いつも北の空に見えていて、動かないように見える星がある。その名はこぐま座の一番明るい星「ポラリス」。これを我々は「北極星」と呼んでおり、いつでも、どこでも北の方角を教えてください。しかし未来もずっとなる星だ。しかし未来もずっと「北極星」であるとは言えないそう。驚くことに、5,000年程前にはりゅう座の星ツバパン辺りが天の北極、そして今から12,000年も経つと、こぐま座のベガ辺りに天の北極がくるそう。これも、宇宙的悠久の時の流れ、スケールの大きい話じゃな。なお、現在の北極星は、真北(天の北極)から約0.8度ずれていて、小さい円を描いて動いているんじやな。

木星★

見頃「ポーンツル彗星」にも注目!!
この4月、ポーンツル彗星が地球に接近する。天文ファンのみならず、この天文ショーへの関心は大いに高まっているよう。夕方西の空に、4等級くらい明るい明るさで見えるとのこと。場所は、おひつじ座辺り、4月半ば頃には木星の南の低い空を移動していきそうじや。難しいが彗星観察にも挑戦して見よう!

【星空まっふの見方】

南の星空を見上げる時は「南」を下に、北を見る時はまっぶをさかさまにして「北」を、同様に東の空は「東」、西の空は「西」を下にして見上げてね!



【黄道】

天空の星座のあいだを移動する太陽の見かけ上の通り道

南S

- 1等星以上
- 3等星
- 2等星
- 4等星以下